

Contents

Page 1

巻頭言
「千里地理通信」
で結ばれて
橋本 征治

Page 2

同窓会長就任にあ
たって
渡邊 登
いま関大地理の両
期か
木庭 元晴

Page 3

教室草創期の先生
方
赤松 秀貴

Page 4

卒業生だより
オリブオイルソ
ムリエは一日にし
てならず
宮林 由佳

Page 5

1泊バス巡検報告
和歌山県紀北地方
の風土と黒潮文化
興梠 亮太

Pages 6~7

研究ノート
土佐市波介川流域
の標高データを用
いた水害特性
清水 紀宏

Pages 8~9

卒業論文・修士論
文一覧
マレック氏に博士
(文学)の学位授与
今後の研究会行事
教室だより
平成27年度中間
会計報告

Page 10

随想
高槻ミュージック
ンパスからの報告
辰巳 勝

Pages 3~5, 8

新入生からの
ひと言

巻頭言

「千里地理通信」で結ばれて

橋本 征治

小生が関大地理を退職してから、はや7年の歳月が過ぎ、地理と直接関わることも少なくなった。しかし、特に勧めた訳ではないが、孫が地理コース（他大学だが）へと進んでくれたお蔭で地理の学びの雰囲気は伝わってくる。そうした折に、この欄に一文を寄せよとのお話しがあつたので、しばし関大地理のあれこれを振り返り、卒業生諸君や現役生の皆さんに語りかけてみたい。

地理という「学びの場」を共有し、そこで共に学び様々な縁でつながる人たちが集う場として、そして学窓を巣立った人たちを繋ぐ強い縁として、この『通信』が1978年に創刊された。爾来、『通信』はかれこれ四十年近く年2回刊行され、地理について語るとともに教室を中心とする様々な情報を伝え、その役割を果たしてきた。『通信』以外にも、地理学教室の歴史を刻むものとして『千里地理成長記-地理学教室30年史-』（1998年）と『千里地理成長記2』（2009年）が刊行されている。

卒業生の皆さんも、手元に『通信』や『成長記』があつたら、一度それらをひも解いてみられてはどうだろうか。学生時代という人生の一里塚。それは、今の自分の仕事や興味とは縁遠くなっているかもしれないが、自分史の中の重要なステップであつたことは確かであろう。現在の“地理の学び”を伝えるこの『千里地理通信』の紙面を通して、若かりし頃を振り返り、様々な時と場での学び、実践、思い、友情……をかみしめてみてはどうだろうか。そう、校門から入るとすぐ登りになる法文坂、大教室や地理学実習室、ゼミ、クラブ活動、生協食堂、図書館、グラウンド……。そして校外へ実習調査、旅行、アルバイト……。もっと様々であつたらう。例えば、夜間に学んだ人は、今は無き天六学舎を懐かしむかもしれない。

そこで、小生も、五十~六十年ほども前のことになる学生時代に立ち返り、一、二のことに触れてみよう。まず、そこで終生の友を得たことをあげたい。きっかけは忘れたが、入学してすぐに仲の良い友達が何人かできた。そして、

よく登校時に、先ず大学の傍に下宿する友達の許へ。そこで、仲間と駄弁ってから、さて授業へと。逆に、帰りがけに立ち寄り、時には繁華街に繰り出すこともあつた。それぞれ専攻は違ったが、そうした折に触れてのよもやま話から人生論や文学論へ、またクラブ活動、時にはデモに参加したり、遊びと、話題や振舞いは多様で、尽きることはなかった。さすがに卒業後も親しくしている友は限られるが、彼ら（特に件の下宿生）とは就職・結婚・子育て、時には家族ぐるみの交遊と、今日に至るまで親しくしてもらっている。そうした折に触れての思い出は小生の大切な“心のふるさと”のようなものであるし、学部時代の経験や思考の遍歴は小生が地理学に進む道筋へと繋がっていたことに思い至る。今一つの“ふるさと”は、地理学に進んだ小生を育ててくれた“育みのフィールド”である。以前にこの通信（60号）でも触れたが、そのフィールド（散居村、砺波）では、そこへと導いて下さった先生、共に学んだ仲間、そして地元の人たちから様々な形で沢山のことを学ぶことができた。そして、そこでの様々な交流から得たものが小生の人生の肥やしにもなってきたと強く思っている。

現役生の皆さんにも、ひとこと話させて頂きたい。それは、“精一杯生きよう”ということだ。青春を謳歌するもよし、困難に挑戦するもよし。君たちの前には多様な道があり、自ら望めばあらゆる可能性がひらけている。ただし、進むに当たっては、焦らずに状況をよく判断し、己の意志を深く見極め、強く固め、尻拭いは自らするとの覚悟をもって、一歩、そしてまた一歩と前へ進んでもらいたい。きっと道は開けていくことだろう。たとえ失敗しても、そうした努力から得るものは多いはずだ。どうぞ頑張ってください。

（本学名誉教授）



同窓会長就任にあたって

渡邊 登

燈火親しむの候、読書にスポーツにふさわしい季節と
なっていました。学生時代の思い出にふけるにもま
たとなない候かと存じます。

さて、昨年の「千里地理通信」の記事でご承知とは存
じますが、この数年で定年により教授3名が関西大学を
離れられるという教室事情、会員数減少に伴う研究会の
資金難が生じています。昨年末の「地理学研究会再生検
討会議」を経て、地理学教室では地理学研究会とは別に
本教室卒業生を中心とした新たな組織（「関西大学地理
学同窓会」）を結成すること、会費の新たな納入方法を
導入することとなりました。この会議で同窓会会長を要
請されました昭和51年3月卒の渡邊 登でございます。
会長就任にあたり、長兄諸氏をさしおき若輩の私はその
任にあたれるのか悩みましたが、65歳までの方から会
長をとという教室のご意向もあり、お受けすることといた
しました。

私は、大学卒業とともに大阪府立高校教諭に採用さ
れ、管理職の期間を除き毎年地理に携わり、現在は定年
退職後再任用で再び地理と関わっております。学生時
代、織田武雄先生に地理学に導いていただき、末尾至行
先生には学問の厳しさ、青木伸好先生には学外へ目を向
けることを教わり、橋本征治先生には卒業後も教員とし
て折々にご指導をいただきました。今日の私があるのは
関西大学地理学教室の諸先生方の御陰であることは紛れ
もない事実です。

同窓会活動では、母校での勤務経験もあることから定
年後、出身高校の同窓会副会長に就き、現役生への教育
活動支援と同窓生への親睦活動を行っています。これか
ら関西大学地理学同窓会の活動を行ってまいります、
同窓会に与えられたミッションは地理学教室への支援と
同窓生の親睦活動にあると考えています。今後の活動方
針・活動計画とも定まっておりますが、教室スタッフ
の方々との連携を通して、その時々に必要な事業を皆様
方のご協力を得ながら進めていきたいと存じます。現在
は卒業生名簿の整理を行っており、お名前と連絡先の確
認を行っています。卒業後転居等で住所不明の方もおら
れます、同窓の方で連絡先をご存知の方は事務局までお
知らせください。多くの方々に本学同窓会活動にご参加
・ご協力いただき、地理学教室へのサポートを行って
いきたく存じます。

結びに際し会員の皆様はじめご関係の皆さまのご健勝
ご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

(1975年度卒業、大阪府立花園高校教諭)

いま関大地理の画期か

木庭 元晴

日本の自然河川が皆無になって久しい。ここ数年、専
門外ではあるが飛鳥時代の都市開発の研究をしてきた。
1400年以上前でも、土木工事はかなり激烈なもので、
日本の地理学で永らく誤って自然堤防と呼ばれてきた例
えば奈良盆地南部「大和川」の人為的堤防や「飛鳥川」
の河道付け替えなどが行われていることがわかった。河
川が水路になった。時代はずっと下って、日本の敗戦後
にも大規模な水路改修が進み、恒例の水害イベントが克
服されたかにみえ、元々河川であった場所の都市化が進
んだ。そこに戦後暮らしてきた人々は、ここ数年の水害
を経験して、現状が理解できずにいる。2011年の東北
の大震災の時の未曾有の津波と類似の感覚を持っている
のかも知れない。2011年津波については、より大きな
防潮堤建設に違和感を持つ人々も多く、国の大規模な公
共工事に反対する人々がいる。実は水路についても同様
で、堤防を強固にすれば安心かというところではない。
人は自然環境の改変を反省し、新たに生活環境を構築し
ていかなければならない、と感じるのであるが、日本社
会ではこの考えは、未だ受け入れられていない。

さて、関西大学地理学教室を見てみよう。近代地理学
の歴史は浅く、日本でのそれも浅い。関大地理学教室は
もっと短い。来年度は創立五十周年で、次の赤松氏のエ
ッセーには草創期の教室の様子が教師評を通じて楽しく
記されている。我が教室史にとって、河川、水路、氾
濫、堤防、はそれぞれ何に当たるのだろうか。河川は日本
の歴史、数ある零細水路の一つが大学地理学。堤防は、
まあ社会的貢献度とでもいうもので、研究成果だった
り、卒業生であったり。氾濫要因として学校教育の地理
の存在感の低下などもある。

折角作った水路ではあったが、堤防が氾濫で簡単に壊
れてしまうのはさみしい。河川は必ず元の原野に戻ろう
とする。折角の歴史をなんとか遺そうとするのは悪いこ
とでは無い。その戦力の一つが、卒業生による同窓会長
の誕生であると思う。捨て石にならぬよう、卒業生、現
役生、で支えていって欲しいと願う。昨年度、教室始ま
って以来、本学出身である松井さんがスタッフとなっ
た。他の三名の教員は近いうちに教室を去る。新たな地
平は、血のにじむような研究と、社会正義にかなう人材
教育であると信じている。地理学は自然や社会を見る手
法として決して悪く無いと思っている。

(本学教員)

教室草創期の先生方

赤松 秀貴



早いもので来年（2017年）は地理学教室創設五十周年ですか。そこで思い出すまま、四十数年前にご指導を受けた先生方のご苦勞とユーモアの一端を綴らせていただきました。

1. 宇田米夫先生のこと

関大に地理学専攻ができる以前から地理学担当教員として教鞭をとっておられたのが、宇田米夫先生でした。『先生の横顔』（関大教育後援会 1971年）によると、「1929年旧東京商大（現一橋大）卒。『はだか随筆』で有名な佐藤弘（ペンネーム弘人）教授の門下で、戦前、旧満鉄調査部に長らく勤務し、東南アジアに研究旅行もされた」とあります。末尾至行先生が1966年に着任されるまでは、地理学専修コース開設の中心となり、大変なご苦勞をされたものとお察しいたします。私ども学生は遠慮もなく紀見峠のお宅まで押しかけてお酒や料理をご馳走になりましたが、さすが噂に聞く佐藤弘先生の門下、座談の名手でもありました。

2. 橋本征治先生のご指導

私が地理学専攻に進んだ頃は、まだ教室の草創期だったので、先生方も未熟な学生をなんとかしなければ、と思われていたのでしょう。赴任されて間もない橋本征治先生には、英文の文献購読をしていただきました。また先生ご自身のフィールドである砺波平野を対象として作図法を教えてくださいました。正規の授業ではなく全くの奉仕ですので、今振り返ると本当に有り難いことで頭が下がります。

3. 末尾至行先生と軟らかい話

末尾先生のご指導も熱心で「欧米の地理学雑誌に載っている論文ひとつを和訳せよ」という宿題を出されるほどでしたが、あるお酒の席で珍しく次のようなお話をされました。「戦後間もない頃の話。藤岡謙二郎先生を中心に何人かの先生方と茨木市内の調査に行ったとき、合宿した宿がいわゆる「連れ込み旅館」で隣にカップルが泊った。隔てるものはふすま1枚なので

毎日のように色々な珍事が起こった」と。今から思えば高名な地理学者の合宿、珍事の具体的中味をお聞きしておけばよかったと思っています。

4. 青木伸好先生と団体交渉

私は地理学専攻卒業後、サラリーマン生活をしてきたこともあって、法学部の夜間部に再入学しました。1970年代後半でしょうか、青木先生は学生主任をしておられて、夜間部でも学生との団体交渉の矢面に立っていらっしゃいました。私は先生のおからだご心配で団体交渉を見にいったことがあります。交渉を終えると毎回、大学当局が慰労会を開いてくれたそうで、「交渉よりこれが疲れる。早く家に帰りたい」とあの豪気で愉快な先生がおっしゃっていました。1年ほどして京大へ転任されたときは正直ほっとしました。

5. 織田武雄先生の座談

織田先生も座談がお上手で、旧制第七高等学校在学中のことを「僕はコウトウガッコウへ行ってない。ホウトウ（放蕩）ガッコウや」とおっしゃったり、旧制の関西学院高等商業に赴任されたときに、木造校舎の隙間からタバコの煙がもれて喫煙しているのが見つかって、学校当局から大目玉をくらった話をお聞かせくださいました。当時は全く知らなかったのですが、のちに人文地理学会創設や本学大学院地理学専攻創設に大変ご苦勞されたことを知りました。

昨今、私ども高齢者にも若い方々にとっても非常に厳しい世の中となりましたが、教室草創期の先生方をお手本として、お互いユーモア精神で前進してまいりましょう。

（1972年度卒業、元地方公務員）

新入生からの一言

〈学部2回生〉

家田涼平

小さい頃からよく旅行に行ったこともあり、次第に地理に興味を持つようになりました。そんな自分に一番合ったこの専修でさらに深く学んでいきたいと思いました。これからよろしくお願ひします。

伊藤純弥

私は交通機関や都市、地下構造物等に興味があるので、それらについての学習を中心に考えています。また、フィールドワークを通して自分の足で情報を集めたり、コンピュータを用いた情報処理を行う能力を高めたいと思います。

岡村裕子

高校では地理を学んでいなかったのですが、地理についてはあまりわかりませんが、観光地理や都市地理、植生地理に興味があり、勉強してみたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

蔭山胡桃

どうぞよろしくお願ひします。

岸本夕佳

高校での地理の授業で、地理の面白さや楽しさを知り、この専修を選びました。学びの扉を受講した時に、都市地理学や歴史地理学に興味を持ったので、もっと学んでみたいです。宜しくお願ひ致します。

重名ひな子

寺社仏閣を巡ったり観光したりすることがすごく好きで、観光地理に大変興味があります。将来は観光業にと考えているので、総合旅行業務取扱管理者試験合格を目標に大学生生活を送っています。

鈴木涼太

一回生の頃に地理の授業を取って興味を持ったのでこの専修に入りました。地理の知識はあまりありませんが授業や巡検などでたくさん知識を得ていきたいと思っています。

田所亜未

私はこの専修で今年度は地理学はもちろん測量学や環境学など様々な分野の基礎について学びたいと思います。自分が本当に興味がある内容のかを極め、3回生ではその分野について専門的に学んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

辻村啓悟

高校から地理が好きで、今は登山や旅行によく行くのでいろんなところに訪れています。専修に入ったら、交通地理学を学びたいと思っています。よろしく願います。

棚窪亮太

私は小学生の頃から、地理がずっと好きで、大学に進学してからも、地理を勉強したいと思い、地理学専修に入りました。大学の地理は知識を

■ □ 卒業生だより □ ■

オリーブオイルソムリエは一日にしてならず

宮林 由佳

2012年にイタリアでオリーブオイルソムリエを取得した。イタリアに初めて行ったのは8年前。友人との旅行で、歴史を感じる街並み、陽気な人々、そして何といても美味しい食事に私の心と胃袋は捕まれ、一気にその魅力へと惹き込まれた。食べることは昔から好きで、大学時代の勉強はほとんど食文化に費やした。そんな食への思いから卒業後に調理師免許を取得、料理の世界へ飛び込んだが、想像以上に厳しい世界だった。一度はこの世界を諦めて料理とは全く異なる仕事もしたが、やりたい事が見えずに悶々とした日々を過ごす最中でのイタリアとの出会いだったのだ。それからはイタリアについて色々と調べるようになり、外国語はさっぱりだった私がイタリア語を勉強するようになった。「イタリア」というアンテナを張っていると、色々と情報が入ってくるもので、「オリーブオイルテイasting講座」なるものを見つけ、イタリアだし…という理由で講座を受けることにした。これが私の好奇心を掻き立て、オリーブオイルソムリエへと導く体験となる。オリーブオイルには何百と品種があり、オリーブオイルを口に含むと香りが広がり、その一本一本に香りや味わいが違うということが分かった。そして、このようなプロフェッショナルは何者なのか訪ね、オリーブオイルソムリエの存在を知ったのである。しかしなぜ、イタリアのオリーブオイルに惹かれたか。今思えば、私が地理学を勉強していた頃の興味と共通しているから、と言えるだろう。

イタリアは世界でも特にオリーブの品種が豊富で、だからこそ品種による地域性が強く感じられる。土着品種と呼ばれるその土地特有の品種がイタリア全国に散らばっており、出来上がりのオリーブオイルの香りや味わいは千差万別で、品種による特徴もあれば、抽出方法や収穫時期、気候等様々な要因で味わいは違って来るし、ブレンドによって、また違ったアロマを作り出すこともできる。さらに、イタリアは都市国家の歴史が長く、料理の地域色が強い。各々の地域の料理とオリーブオイルはぴったりとマッチングするということなのだ。そういった地域性が感じられるオリーブオイルとイタリア

にはすっかりはまってしまったのである。それはおそらく、地理学を学ぶうちに、地域による文化の違い——それは特に食に表れる——に興味を持ち、数年経ってオリーブオイルの興味へと繋がっていったのだろう。

現在私は Ponte miYa (ポンテ・ミヤ) という

オリーブオイルの受注販売・イベント出店販売や講座・それに伴う料理教室等を主宰している。野間先生から一昨年、オリーブオイルソムリエとして授業する機会を頂いた。母校でのこのような機会を持てるとは思ってもみなかったもので、非常に嬉しく、二つ返事で受諾した。普段なら少なからずオリーブオイルに興味がある方々を相手にしているので、多少緊張もあった。しかし、常の仕事にも言えることだが学生時代の研究発表や現地調査の経験がこの様な場面でもとても役立っていることを実感している。ちょうどオリーブの収穫時期だったので、新物の搾りたてオイルをテイastingすることにした。目の前にあるオリーブオイルが健康であるか、どのような香りや味わいを持っているか、欠陥はないか—残念ながら欠陥オイルは存在する—等を探るために、オイルを口に含んで判断する特有のテイasting法がある。それまで興味がなさそうだった学生も、テイastingになるとその新鮮なオリーブオイルの香りに驚いている様だった。オリーブオイルは香りがあるこそオリーブオイルである。そのことを直に感じて貰えただけでも私には大きな収穫だった。僅かだが、学生達の新しい扉を開くことが出来ていれば嬉しい限りである。知れば知るほど好きになる、まだまだ知りたいオリーブオイルとイタリア料理。学生時代の学びと通じている。オリーブオイルの奥深い世界を垣間見ていただけたでしょうか。

(みやばやし・ゆか 2003年度本学卒業、Ponte miYa 代表・オリーブオイルソムリエ・調理師)
ポンテ・ミヤホームページ <https://pontemiya.localinfo.jp/>



発見がいっぱいのオリーブオイルテイasting講座

■ □ 1 泊バス巡検報告 □ ■

和歌山県紀北地方の風土と黒潮文化

興梶 亮太

2016年5月21日(土)~22日(日)、私たちは紀州の風土と黒潮文化を学ぶために和歌山県紀北方面に巡検に行きました。巡検当日、天王寺駅に集合してバスに乗り込み、阪神高速湾岸線、阪和自動車道を通ってまず、和歌山市の郊外にある紀伊風土記の丘に到着しました。ここでは本学に昨年まで非常勤講師としてご出講いただいていた水田義一館長に案内いただき、班に分かれて園内を歩き回り、横穴式石室の中を見学したりしました。同じ石室でも中のつくりがところどころ異なっていてとても興味深かったです。

次に和歌山城の近くで海鮮天ぷらの昼食をとったあと、再びバスに乗り込み有田郡湯浅町に到着しました。角長しょうゆ工場・付属博物館の見学をし、薄口・濃口・溜醤油の違いや作り方について学びました。そのあとは湯浅の重要伝統的建造群保存地区を徒歩で見学しました。

次にバスに乗車して湯浅町に隣接する広川町に行きました。安政南海地震津波の後に作られた広村堤防を見学し、「稲むら火の館」で安政南海地震や津波・防災一般について理解を深めました。その後、和歌山市の雑賀崎の港・漁村を歩いて見学しました。道が細くて入り組んでいてとても特徴的でした。そして宿泊する3回生、大学院M1の人は雑賀崎の宿舎・潮風荘へ、日帰りの2回生やOB・その他の大学院生

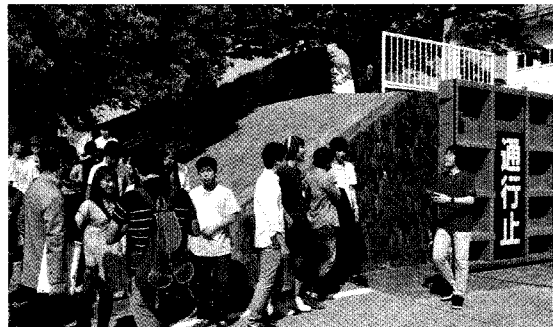
の方はバスで、阪和自動車道経由で天王寺へ戻りました。

2日目は宿舎からマイクロバス・タクシー分乗で市役所前までいき、そこで再び和歌山城のすぐ下に在住の水田義一先生のご案内で、徒歩で県庁前・和歌山城・本町・ぶらくり丁商店街・鷲森別院などを巡りました。その後和歌山城の近くで昼前に現地解散となり、今回の巡検は終了しました。

今回の巡検は、事前に自分たちが調べて現地で発表したこと以外に、ほかの人の発表、現地の人のお話、実際に見たり感じたりしたことなどたくさんのことを学ぶことができ、とても有意義でした。

最後にこの巡検に関わっていただいた野間・松井先生、院生の方々、現地で案内をいただいた水田義一先生に感謝致します。

(こおろぎりょうた：本学3回生)



広川堤防にて (2016年5月21日)



和歌山城での水田先生の説明 (2016年5月22日)

問うものではなく、自ら調査して、その地域の特色を発見することです。フィールドワークが多く、とても楽しい学問です。

中野さくら

自然や山などが好きです。趣味は体を動かすことで、ソフトボールや陸上、山岳などをしていました。これからよろしくお願ひします。

長沼修平

高校の時から地理学に興味を持っていたので、この専修に入りました。これから色々なことを学んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

二木裕太

座って受ける授業より、体を動かすフィールドワークの方が好きなので地理学専修に入りました。分からないことが多いのですが、たくさんの知識を得るように頑張ります。

八川綾佑

私は、この専修に入って観光や防災などをテーマとした学習をしていきたいと考えています。私の地元が観光地ということもあり将来的には地元での就職も考えているためこのテーマを学習したいと考えています。

(p.8につづく)

土佐市波介川流域の標高データを用いた水害特性

博士課程前期課程 清水 紀宏

1. 目的と手法

土佐市を西から東に流れ、仁淀川で合流する波介川^{はげ}の流域（流域面積 73.3 km²、幹線流路 19.0 km）は、過去度々水害に見舞われてきた。特に 1975 年 8 月に土佐市を襲った台風 5 号による水害は、過去 100 年で最悪の浸水面積 1.59 km²と浸水家屋数 3354 戸を記録した。波介川流域での水害の原因は、波介川は上流に行くほど地盤が低い低奥型の地形であるためである¹⁾。台風などの集中豪雨により波介川の水量が増大した場合、南に流下する仁淀川の水流が大きく、合流点付近で排水不能となるだ

けでなく、仁淀川が波介川へ逆流する。

この逆流氾濫を防ぐ目的で、仁淀川と波介川の合流点を仁淀川河口部に付け替える波介川河口導流事業（2013 年 3 月完工）が行われた。この事業で、水害リスクは土佐市市街地では軽減された筈であるが、未だ波介川上流地域ではリスクは残る。

本研究では、国土地理院が公開している標高データ 5 m メッシュを ArcGIS に取り込み、過去の水害と重ね合わせ、土佐市波介川流域を危険度に応じていくつかの小さい領域にわけ、個々の特性を検討した。

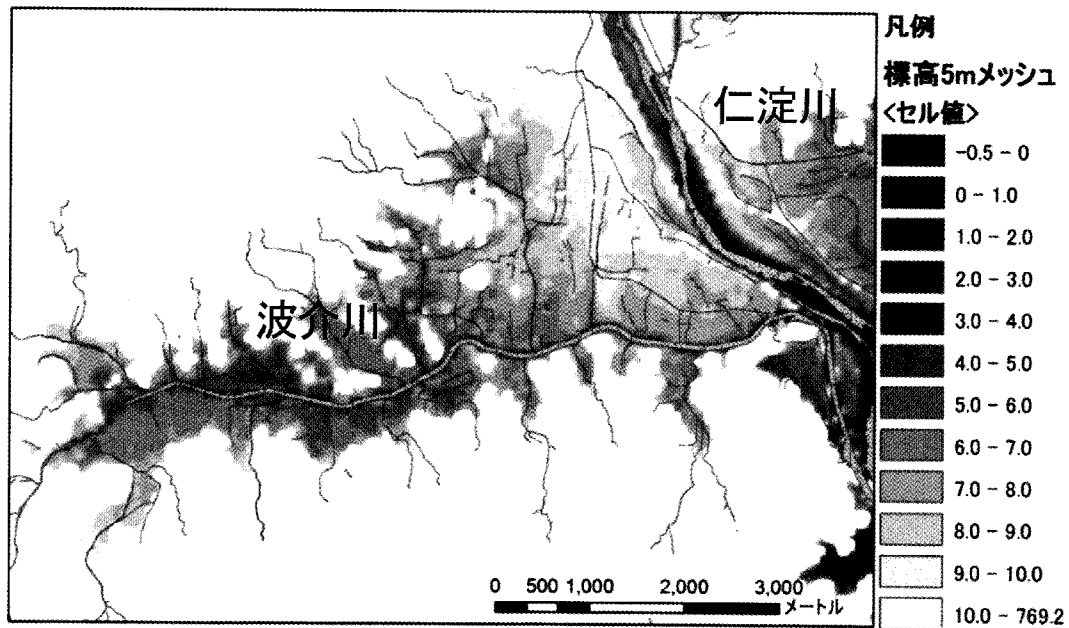


図1 波介川流域の標高分布

2. 昭和 50（1975）年水害と同等の水負荷下での河口導流事業を反映した想定浸水域

図2は昭和50年水害と河口導流事業後の想定浸水域を示している。その結果、波介川河口導流事業によって土佐市市街地周辺の水害のリスクは軽減されたが、未だ上流域の水害のリスクは残っていることが判明した。波介川は上流に行くほど地盤が低い低奥型の地形であることが今でも影響していると推定される。

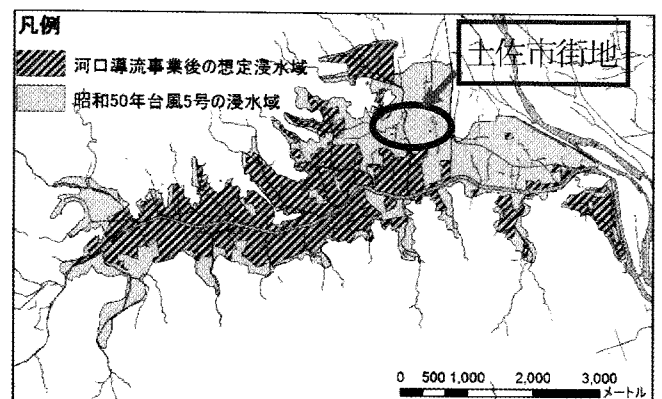


図2 昭和50年水害と河口導流事業前後の想定浸水域^[2]

表1 波介川流域の各危険地域の性格

地域	整備前の 水害リスク	整備後の 水害リスク	主な標高	主な土地利用	主な土地条件
地域 A	高い	高い	4 m~7 m	田	後背湿地
地域 B	高い	地域 A より 軽減	7 m~10 m	住宅地, 商業用地	盛土, 埋め立て地
地域 C	低い	低い	8 m~10 m 以上	畑 (ビニールハウス)	自然堤防

3. 波介川流域沖積低地の水害危険地域のランクづけ

以上の分析をもとに波介川流域の沖積低地に限定し、水害危険地域を危険度にかけてランク付けを行った(表1)。

地域 A: 標高が低く、波介川河口導流事業後も水害のリスクがある地域

地域 B: 波介川河口導流事業後水害リスクが軽減した地域

地域 C: 昭和 50 年水害でも被害が出ず、自然堤防が多く分布する地域^[3]

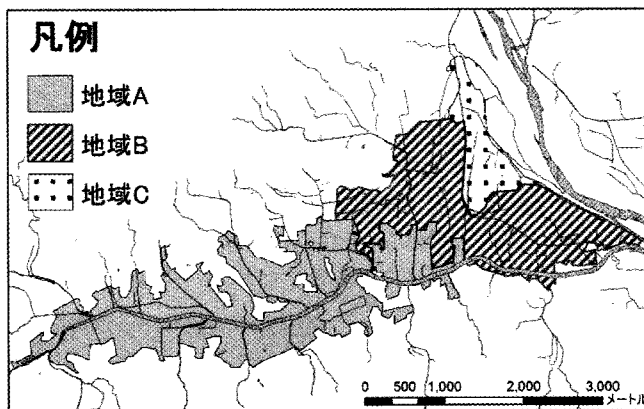


図3 波介川流域の危険地域のランク分け

地域 A は、広大な後背湿地が続く地域で、かつてはイグサが栽培されてきた。地域 B は、土佐市の市街地地域が多く含まれる地域であり、自然堤防は東西方向に分布することから波介川によるものと考えられる。そのほか、盛土や埋め立てを行っていることから、地域 A よりも標高は高くなっている。地域 C は、自然堤防で、標高は 8 m~10 m 以上である。

その結果、水害リスクは、地域 A が最高で、次いで地域 B、地域 C の順となる。この分類方法は、あくまで今まで通りに仁淀川本流の逆流によって洪水被害が出た時を想定しており、万が一仁淀川本流が破損すれば、地域 C の被害は甚大である。

波介川河口導流事業により、土佐市市街地は水害のリス

スクが低減した。しかし、昭和 50 年の水害と同等の水害が発生した場合、今でも波介川上流地域は、想定浸水域に指定されている。そのため、波介川上流地域の後背湿地は今でも住宅地ではなく、水田利用が主である。

注

[1] 高知河川国道事務所『波介川河口導流路』より引用。

[2] 土佐市提供資料『波介川導流事業』をもとに作成。

[3] 自然堤防の分布については、国土地理院製治水地形分類図『土佐高岡』に拠っている。

参考文献

高知河川国道事務所『波介川河口導流路』

土佐市提供資料『波介川導流事業』

国土交通省 国土地理院 地理院地図(電子国土 Web) 治水地形分類図更新版 2016 年 9 月 9 日閲覧

【付記】本稿は 2015 年 10 月に関西大学文学部地理学・地域環境学専修の 3 年生(小川諒也, 木下雄太, 迫田雅彦, 佐藤寛哲, 西田元気, 力石垂海, 森元一登, 山口翼, 大西沙季, 戸高幸星, 山下智美, 伊佐嘉真, 松尾絢斗, 池田航大, 森本翔)・大学院生(齋藤鮎子, 清水紀宏, 直暁陽, 榮蓉)で共同調査した成果の一部を筆者がまとめたものである。調査に便宜を図っていただいた土佐市市役所の職員の方々に深くお礼申し上げる。

2015 年度地理学実習調査報告書 No.40 目次

『高知県土佐市の地理』

はじめに

I. 土佐市の概観

II. 土佐市の災害

—過去の災害と住民意識からのアプローチ—

III. 土佐市の園芸農業の形成と展開

IV. 宇佐地区の漁業および水産加工業の盛衰

V. 土佐市における製糸業の伝統と新しい動き

VI. 土佐市の中心市街地における動向と生活実態

VII. 土佐市域における四国八十八箇所遍路の現状と変容

VIII. まとめと提言

2016 年 3 月刊, 全 211 頁

湯河勝平

高校の時に地理を取っていて地理が楽しかったので入学以前からこの地理学・地域環境学専修には興味がありました。どの分野を勉強するかはまだはっきりと決めていませんが都市地理学を勉強しようかなと思っています。よろしくお願ひします。

〈博士課程前期課程〉

付 雪夢

この大学院に入学して、始めは友達が出来るとか、勉強ついていけるかなとかたくさん不安がありましたが、今はゼミ皆仲良くなりました。勉強の方はまだまだ不安がありますが、夢の実現のためにこれからもっと頑張ります。

萬野晴彦

民間企業を退職後、人と自然との関わり方に興味を持ち、北アルプスの山小屋での勤務、海外生活を通して、それらを考えてきました。大学院では、それらの経験を踏まえて、人と自然との共生について研究をしていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

山岡真一郎

旅行・鉄道・農業・歴史・街歩き。色々な興味の交差点を求めて地理学の門を叩きました。学部時代は石川県立大学で食品の化学をやりました。修論のテーマは交通地理を考えています。よろしくお願ひします。

【卒業論文 2016年3月卒業】

- 岩崎 滯 大衆のクラシック音楽の受容
- 大丸恵梨加 京都市の農産物直売活動と振り売り文化の継承
- 神崎 貴充 地域の鉄道としての播但線の役割とその変遷
- 中谷 京子 観光地に求められる魅力と快適性
- 山崎 凌 和泉市・泉大津市における市境界錯綜地の現状と生活
- 吉田 美和 大都市の都心市場の特徴と最近の動向 -黒門市場と錦市場-
- 笠井 佑太 産業の空洞化について -東大阪市を事例に-
- 佐々木瑞帆 摂津国の神社の特徴とその分布 -佐井寺と山田の伊射奈岐神社を事例に-
- 田中 睦月 大阪創業アパレル企業の明暗 -オンワード HD とレナウンを事例に-
- 谷口 萌 日本における都市モノレールの旅客分析と地域における役割 -5大都市モノレールの比較-
- 八田 歩美 野外音楽フェスティバルの発達とその実態に関する地理学的研究 -滋賀県草津市のイナズマロックフェスティバルを事例に-

梶原千朝美 堺市七道駅周辺における歴史的景観再生活動の展開

【卒業論文 2016年9月卒業】

沖口 純 旧制中学校、高等女学校由来の新制高等学校の入学偏差値の分布傾向

【修士論文 2016年3月修了】

王 遠航 中国内陸農村の工業発展による労働力移動と農村生活の変化 -山東省蒙陰県を事例にして-

*専修の最優秀論文として大丸恵梨加さんが選ばれ、卒業式当日に学部長表彰をうけた。

マレック氏に博士(文学)の学位授与

バングラデシュ人で、現地 NGO に勤めるアブドゥル・マレック (Abdul Malek) 氏 43 歳が関西大学大学院文学研究科に 2016 年 5 月 27 日に提出した英文の学位請求論文 Alluvial Land Reclamation Process of Bangladesh with Special Reference to Historical Geography, Geo-politics and Environment since the Colonial Rule [バングラデシュ沖積低地の開拓過程-英領期以降の歴史地理・地政学と環境-] に対して博士(文学)の学位が、6月の公聴会を経て、9月16日に授与された。

マレック氏はダッカ大学で歴史学を専攻、大学院修士課程まで修了後、BLAST (Bangladesh Legal Aid and Services Trust: バングラデシュ法支援トラスト) や RDC (バングラデシュ調査・開発集合体) の地域コーディネイターとして、国内の貧困・土地問題、女性・子どものエンパワーメント、少数民族の人権に対する支援などの NGO プロジェクトにかかわり、これまで多くの報告書執筆やセミナーを開催するなど現場の実践は積んでこれた。その一方で、業務の合間をぬって、氏は国立文書館や図書館、県収税文書室などの原史料や新聞記事を広範に渉猟し、研究資料を収集してきたことが学位論文として結実した。主査は野間晴雄、副査が伊東理、芝井敬司教授、専門審査委員が溝口常俊(名古屋大学・名誉教授)であった。野間とはバングラデシュでのつきあいが氏の学生時代から20年以上続いている。母国バングラデシュの大学には課程博士の制度しかないため、氏の学位取得の道は閉ざされていた。氏から論文博士として学位請求論文を関西大学に提出したいという5年前の希望が今回実現したことになる。



学位授与式のあとで (百周年記念会館 2016年9月16日)

今後の研究会行事

1. 秋の日帰り巡検のご案内

恒例の日帰り巡検を以下の要領で実施します。今回は新旧の建設年代が異なる京阪沿線の近代住宅地を中心に、寝屋川・枚方市内をまわります。ひとりでも多い卒業生、現役学生、大学院生の参加をお持ちしています。

テーマ: 京阪沿線の団地・郊外住宅地の比較と枚方市の歴史景観

日時: 2016年10月16日(日) 10時05分~17時30分(予定) 雨天決行

集合: 京阪本線「香里園駅」橋上改札口を出たところ 10時5分

※京阪淀屋橋・北浜・天満橋・京橋などから快速急行、急行、準急で。出町柳・三条・祇園四条、丹波橋からは特急利用、樟葉または枚方市で乗り換え。淀屋橋（淀行き急行）09:32 発 → 香里園 09:58 着 330 円；三条 09:22 発 →（特急）樟葉で快速急行に乗り換え→香里園 10:01 着 370 円

巡検コース：香里園駅（駅前開発）-大阪聖母女学院小中高校（戦前の京阪の住宅開発と学校誘致）-末広町=新香里（香里団地）-以楽公園前=枚方公園駅-淀川破堤地-枚方宿-鍵屋（船宿・資料館見学）-昼食（「草々徒」）-意賀美神社-枚方市駅（駅前開発）=百済寺跡史跡公園史跡-禁野火薬庫跡・コマツ工場-中宮団地-御殿山（京阪）=樟葉駅-くずはローズタウン-樟葉駅（解散 17 時半頃）。=はバス・電車利用

費用：約 2000 円（京阪バス大阪 1 日券 600 円分、入場料、京阪御殿山～樟葉の運賃、昼食代 1000 円を含む）

その他：枚方公園駅近くの隠れ家的な店（「草々徒」枚方市枚方元町 1-18、電話 072-846-2811）でいっしょに 13 時 30 分から同じランチを食べます。遅めの昼食になることご了承ください。

連絡先：卒業生で参加希望の方は 10 月 10 日（月）までに、電子メールまたは電話で TA の M1 山岡真一郎 080-3849-2837k 178925@kansai-u.ac.jp まで、氏名・回生または卒業生の区別、携帯連絡先をご連絡下さい。

2. 地理学研究会第 105 回例会（研究例会）のご案内

日時：平成 28 年 12 月 10 日（土）15 時研究例会開始 18 時懇親会開始

会場：関西大学 第一学舎 1 号館（A 棟）3 階 A 301 教室

講演：①中川夏姫（クモノスコポーレーション株式会社国際事業部）「迷ったらワクワクする方へ（仮）」

②三好唯義（神戸市立小磯記念美術館）「関大地理学教室と古地図」

③伊東 理（関西大学）「イギリス社会と小売商業 -マーケット・近隣センター・チャリティショップ-」

*なお、例会の冒頭で、博士前期課程学生が、本年度南さつま市で実施しました実習調査について報告致します。

*恒例の懇親会は、大学正門前関西大学会館南館 4F「チルコロ」にて実施します。会費は 3000 円です。なお、懇親会に参加ご希望の方は 11 月 30 日（水）までに、電子メールまたは電話で M1 の萬野晴彦（090-5044-6264, 10000no@gmail.com）まで、氏名、携帯連絡先をご連絡下さい。

教室だより

■平成 28 年（2016）度の学部地理学・地域環境学教室の新入の 2 回生は 15 名で、大学院博士課程前期課程に 3 名、大学院外国人研究生 1 名（陝西省榆林出身）が入学しました。院生の出身は、関大の教育専修、県立石川県立大学の生物資源学部、中国四川省から相愛大学をへて関大へと多様です。4 月 21 日（木）夜に学内の「チルコロ」で歓迎会を開催しました。地理学教室の 3 回生は 29 名、4 回生 20 名、博士課程前期課程 8 名（1 名の都市システム工学科委からの受け入れを含む）、博士課程後期課程 3 名の計 76 名の大所帯となりました。その後、9 月卒業が 1 名、退学が 1 名出まして 2 名減となりました。また 9 月入学で大学院外国人研究生が博士課程前期課程に 1 名入学しました。その結果、9 月末現在の教室の人数は 75 名です。

■今年度新たに非常勤講師としてご出講いただいた先生は以下の方々です。①吉田国光（金沢大学准教授）。博士課程前期課程の「人文地理学特別研究」として、留学生・地理学を学部時代に学ばなかった者を主たる対象として実習をかねた春学期集中講義（8 月 1 日～4 日）をいただきました。②石坂澄子（高槻キャンパスの総合情報学部の「旅から始まる知の探検」秋学期）。石坂さんは地理学教室の OG で、茨木市史編さん室の勤務です。

■恒例の「地理学・地域環境学実習」によるバスによる 1 泊巡検は、5 月 21 日（土）～22 日（日）に、天王寺～和歌山県立風土記の丘～和歌山～湯浅町～広川町～和歌浦～雑賀崎～天王寺でのバス 1 台による巡検（21 日）、22 日には和歌山市の城下町、商店街の徒歩巡検（3 回生対象）を行ないました。宿泊は和歌山市新和歌浦の海辺の旅館でした。

■大学院合同演習は地理学・地域環境学実習室で次の 2 回行なわれました。①7 月 16 日（土）、13 時～17 時、M2 の酒井礼央、清水紀宏、直暁陽、倉田英司。②9 月 17 日（土）13 時 30 分～18 時、榮蓉、山岡真一郎、萬野晴彦、付雪夢（以上、博士課程前期課程）、張旭、張立宇（以上、博士課程後期課程）。

■今年度からの試行として、ベトナムでのフィールドワーク研

修として、専修の希望者がベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部で、ハノイ旧市街の商店・建物、土地利用の調査と GIS 演習を行ない、ハロン湾、周辺農村見学を 9 月 6 日～14 日に実施しました。2 回生 2 名、3 回生 8 名、大学院 M1 が 1 名、D3 が 1 名、教員引率 2 名（野間、松井）で実施しました。関西大学創立 130 周年のグローバル奨学金をすべての受講者が受けることができ、格安料金で充実した研修が可能となり、現地の学生・教員との交流もできました。次号にその報告を掲載します。次年度も 9 月の新学期開始前に実施予定です。

■2016 年 3 月～9 月までの教員の海外出張は以下の通りでした。①伊東理：アメリカ合衆国（8 月 16 日～9 月 5 日：アメリカ合衆国都市調査、私費）、②野間晴雄：ベトナム（9 月 6 日～14 日：ベトナムフィールドワーク研修の引率、私費）、③松井幸一：ベトナム（9 月 6 日～14 日：ベトナムフィールドワーク研の引率、私費）。

平成 27 年度中間会計報告

〈収入の部〉	
前年度繰越金	34,831 円
会費 76 人（卒業生 59 人、現役生 15 人、教員 2 人）	241,240 円
寄付金（7 人、地理学教室）	94,000 円
合計	370,071 円
〈支出の部〉	
千里地理通信第 74 号印刷費（350 部）	32,400 円
千里地理通信第 74 号発送費（123 部）	11,316 円
振込用紙印刷サービス料	402 円
切手代および送付費	10,132 円
合計	54,250 円
差引収支	315,821 円

高槻ミュージックキャンパス からの報告

辰己 勝

2010年4月、高槻ミュージックキャンパスに、社会安全学部が開設された。高槻ミュージック地区はJR高槻駅北口にある西武百貨店の京都寄り、関西大学をはじめ、41階建ての超高層マンション2棟と病院などからなる。高槻駅から大学までは屋根付きデッキで結ばれ、雨天でも傘は不要である。2010年から2年ほどは関西大学以外の建物は工事中で、今日の近代的な都市環境になるとは想像していなかった。大学も12階建てで、最上階の講師控室からは大阪平野が一望でき、晴れた日には淡路島までの眺望を楽しめる。

社会安全学部は定員275名で、同じキャンパス内に、小学校から高校までを併設している。筆者は、開設初年度から教養科目の「世界地理」を春学期に1コマ担当している。初年度や2年目は上回生もおらず、高校の延長のような雰囲気、授業中の私語を何度も注意したことがある。3年くらい経つと周囲の建物も完成し始め、恵まれた学習環境になった。ただ、新しい教室には教壇はあるものの、正面に教卓がなく、ホワイトボード（黒板はない）に板書をする授業には不向きであった。受講生数は2、3年目までは50名以下でマイクなしでの授業ができた。しかしその後は増加の一途で、昨年は130名、そして今年は一挙に291名にもなった。キャンパス内には大ホールを除いて300名を収容できる教室はなく、座り切れない学生がいる状況で授業が始まった。とても1教室では授業ができないので、急遽教務係に対策をお願いした。学生を2教室に分け、一方の教室での授業の映像を他の教室で写すことも提案されたが、板書と地図を掲示して進める授業では不可能であった。同日の他の時間に開講しても、学生がすでに別科目を登録しているために無理であった。その結果、同時限に別の講師を依頼することになり、そこで浮上したのが、『図説世界の地理 改訂版』古今書院を連名で書いている辰己真知子であった。真知子は、金曜日が空いていたので、5月からは、夫婦で同時に同じ授業を担当することになった。学籍番号の奇数学生を筆者が、偶数を真知子が持ち、1組と2組に分けて担当した。

授業は、上記のテキストを用いて進めたが、4単位の授業を想定して作ったものなので、半期で完結するため毎年かなり駆け足で進めている。人数が少ない時は学生の希望も取り入れ、重点的に教える国や地域を選定できたが、今年は4月の遅れを取り戻すため、期末試験は共通問題にする制約もあり、アジアから西回りで世界一周を目指した。朝の電車の中で当日の授業内容を確認しながらなんとか最後の授業を終えた。7月の最終授業だけは、私は火山地形を説明するためにハワイを、真知子

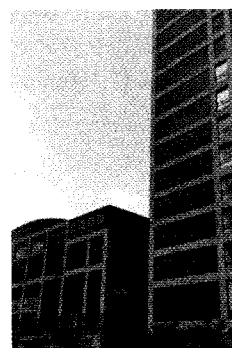
は自分の調査地域であるフィジーの事例を解説した。学生が気軽に話しかけてくるようになった頃には、授業を終えなければならないのが心残りである。この学部では教職科目を除くと地理学関係の科目がないので、できれば世界と日本の地誌を含め、地理学や地誌学の基本事項を習得できる科目を開設してもらいたい。

学生の状況を知るために、高校での地理の履修率や出身地などを今年も4月初めの授業で調査した。その結果、高校で地理を履修した学生は257名中92名で、36%であった。そのうち地理で受験勉強をしたのは40名で、全体の16%を占めた。この数字は、地理学専攻を持たない文系学部では、かなり高い数字である。筆者の勤務校では地理での受験が可能であるが、ここ数年地理履修者の比率は30%を割ることもあり、地理で受験勉強をした比率は10%未満である。また、地理を履修しなかった理由の多くが、高校で開講されていないことを挙げた。潜在的に地理が好きな学生も多く、しかもこの学部で地理関係授業が少ないことも、受講生が集中する一因かもしれない。一方、高校で地学を履修した学生が42名（16%）で、地学基礎を選択履修したものが増えたことを物語っている。

次に学生の出身地を見ると、近畿地方以外が42名（16%）で、内訳は東北1、関東2、中部10、中国9、四国16、九州4であった。近畿地方で京阪神地区からの自宅通学学生が圧倒的に多いことが判明し、東日本が少なく大半が西日本の出身者で占められている。

最後に、この学部では「安全・安心というレンズを通して、私たちが生きる社会や人間、自然を洞察し、そこにある問題を解決することで、自然災害・社会災害の最小化をめざしています」とHPにあるように、時代の要請に呼応して設置された。学生は多様な分野の講義を受け、安全・安心に関する政策立案と実践が出来る能力を身につけ、卒業後の活躍が期待されている。毎時間、目を輝かせながら受講してきた学生たちには、世界各地の様子と地理学の醍醐味を伝授できたのではないかと考えている。

（近畿大学教職教育部教授、本学非常勤講師）



高槻駅側から見たキャンパスの一部（右が教室棟）

千里地理通信 第75号

2016年9月30日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

TEL: 06-6368-1121(内線4890:大学院生室)

E-mail: kandaichiri@gmail.com

URL: <http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/>

郵便振替: 大阪 00970-4-81149